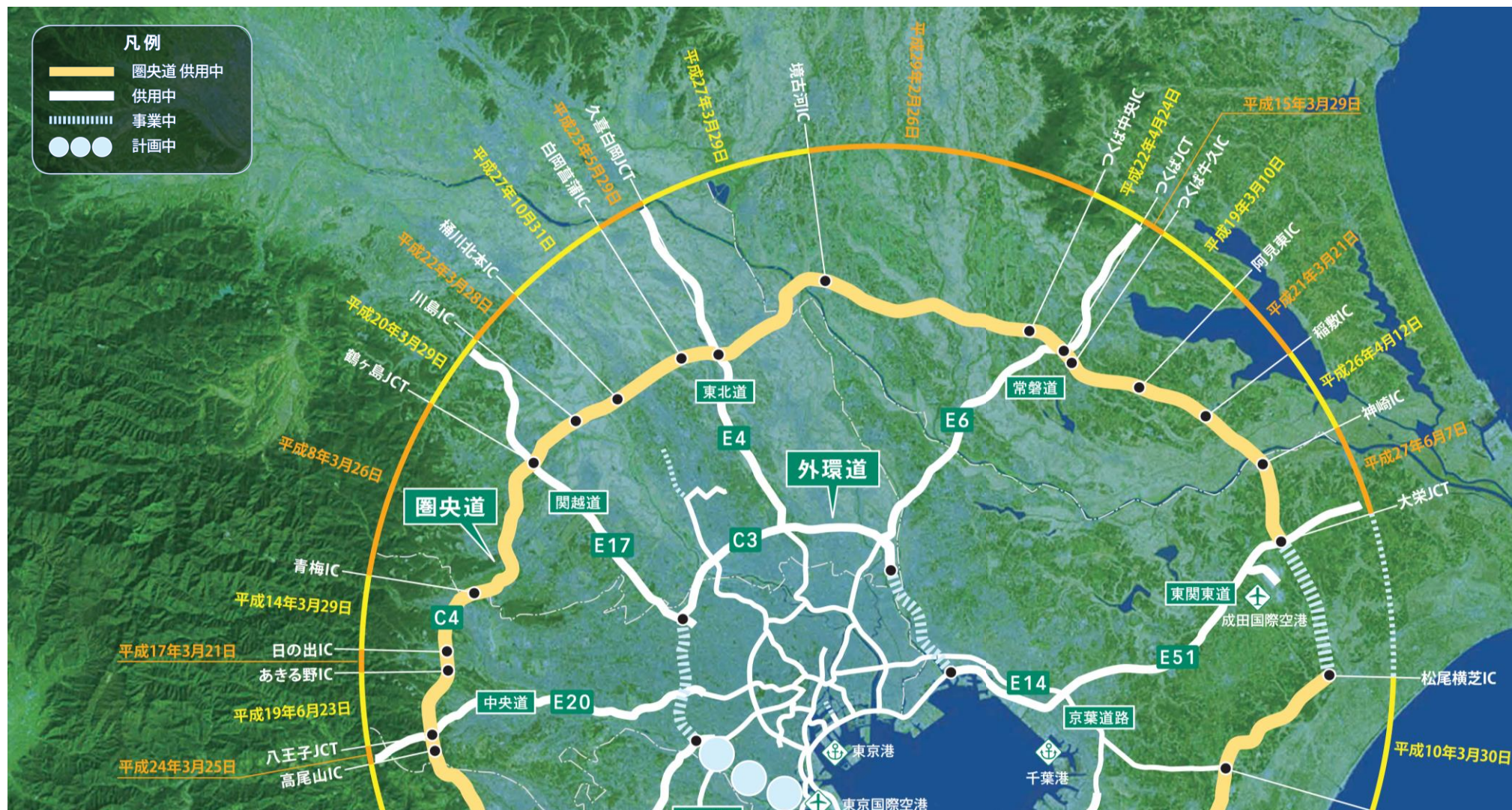


圏央道整備による交通状況の変化

令和6年8月27日

圏央道整備による交通状況の変化【圏央道整備の変遷】

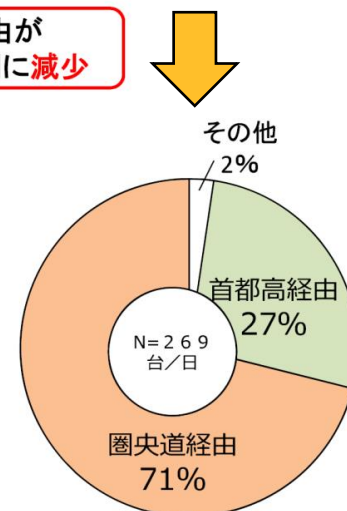
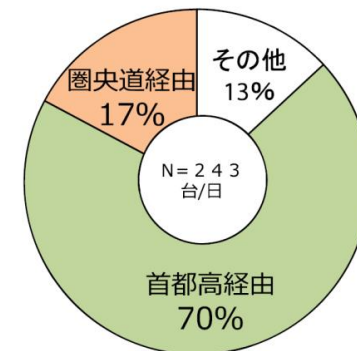
○圏央道は、昭和60年度に八王子JCT～鶴ヶ島JCT間が事業化され、平成8年に青梅IC～鶴ヶ島JCT間が開通して以降、順次開通し、平成29年2月の境古河IC～つくば中央IC間の開通により9割が完成。



出典: 関東地方整備局ホームページをもとに編集(供用時期であり、4車線化時期等とは異なる点に留意が必要)

圏央道整備による交通状況の変化【交通流動の変化】

- 最新の供用である境古河IC～つくば中央IC間の開通時(平成29年2月)の効果としては、圏央道沿線で企業立地促進効果、成田空港へのアクセス性向上効果、圏央道沿線で広域周遊観光が活発化。
- 交通状況の変化としては、都心経由から圏央道経由に交通が転換する効果を既に確認。

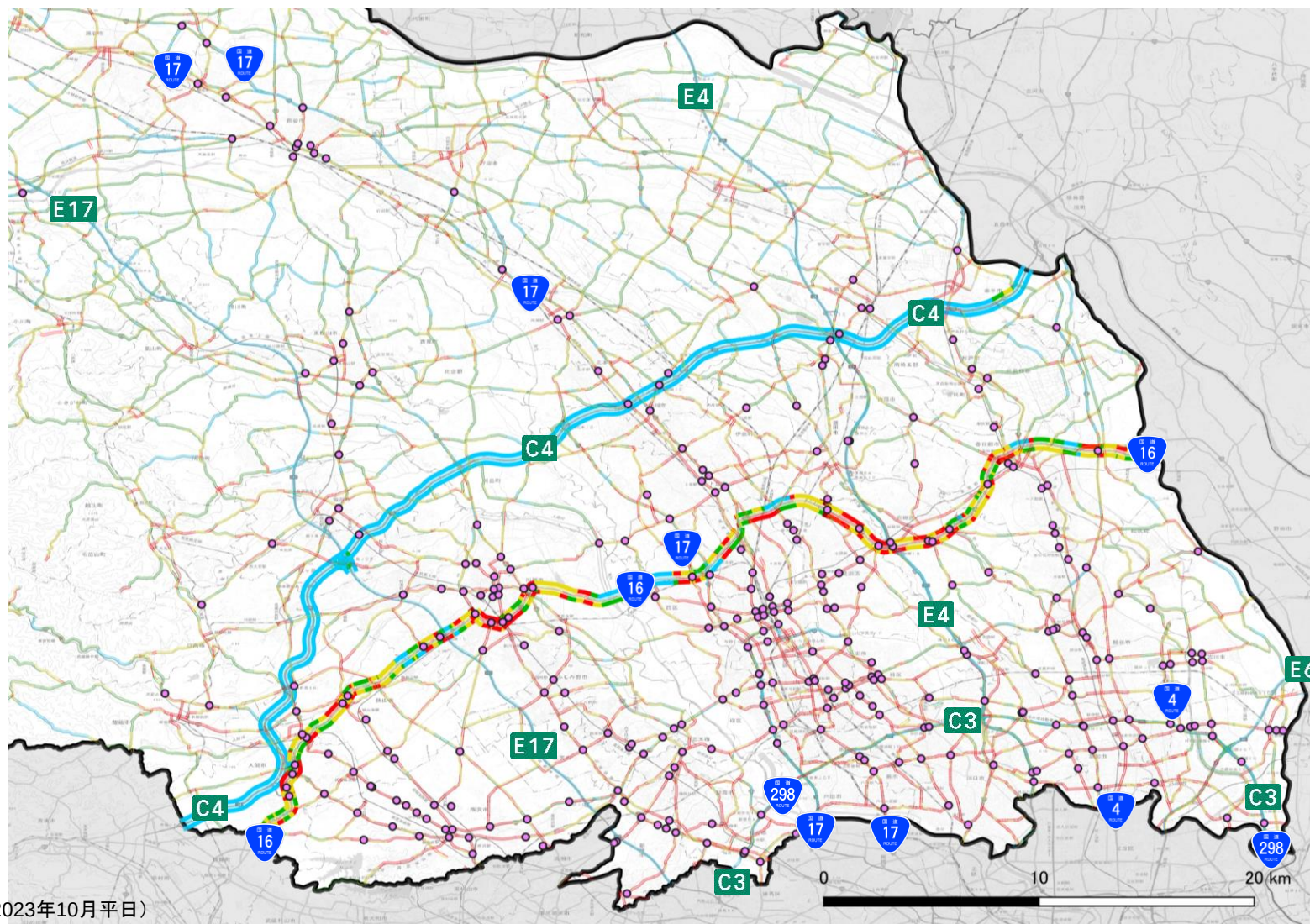


※ETCデータ H28/6の30日間とH29/6の30日間
※「その他」には、外環を経由する経路を含む(逆向き含む)

圏央道整備による交通状況の変化【近年の交通状況と今後の方針】

○平成27年10月31日に桶川北本IC～白岡菖蒲IC間10.8kmの開通により埼玉県内の区間は全線開通。
○しかし、依然として国道16号は旅行速度は低く、混雑・渋滞が発生している区間が存在している。

■埼玉県内の主要渋滞箇所と速度状況(平日昼間12時間平均)



圏央道整備による交通状況の変化【国道16号の速度状況】

- 入間、川越、さいたま市吉野町、さいたま市岩槻、春日部市などで、特に朝夕ピークにおいて速度低下。
- そのため、核都市広域幹線道路等の高規格道路の更なる整備に向けて検討を進める。

● : 主要渋滞箇所

